

平成 20 年度 学校保健統計調査結果（広島県分）の概要について

平成 21 年 5 月 22 日

統 計 課

1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。

この報告は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 20 年度の基本的事項をまとめたものです。

2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子（6 歳～8 歳，10 歳，11 歳，13 歳，14 歳，17 歳）
女子（6 歳～9 歳，13 歳，16 歳，17 歳）の各年齢で前年度の同年齢よりも増加しています。
- (2) 疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、前年度と比較すると、幼稚園、高等学校で上昇していますが、全国と比較するといずれの学校段階においても下回っています。

3 調査結果の概要

(1) 発育状況調査

ア 身長

身長（平均値）は、男子 6 歳～8 歳，10 歳，11 歳，13 歳，14 歳，17 歳において、女子 6 歳～9 歳，13 歳，16 歳，17 歳において各年齢で前年度の同年齢よりも増加しています。

各年齢間の身長差をみると、男子は 12 歳～13 歳の 7.5cm，女子は 10 歳～11 歳の 7.1cm が最も大きくなっています。

親世代である 32 年前の昭和 51 年度調査と比べてみると、11 歳男子で 3.6cm，9 歳女子で 2.3cm と最も伸びています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子			女 子							
	平成20年度		昭和51年度	平成20年度		昭和51年度					
	A 広島県	対前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	A 広島県	対前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	110.1	△0.3	110.8	109.2	0.9	109.5	△0.5	109.8	108.5	1.0
小学校	6歳	116.4	0.4	116.7	114.8	1.6	115.5	0.1	115.8	114.1	1.4
	7歳	122.2	0.6	122.5	120.3	1.9	121.1	0.1	121.7	120.0	1.1
	8歳	127.5	0.1	128.2	126.1	1.4	127.0	0.6	127.5	125.4	1.6
	9歳	133.4	△0.3	133.7	131.0	2.4	133.0	0.1	133.6	130.7	2.3
	10歳	138.6	0.5	138.9	136.4	2.2	139.1	△1.4	140.3	137.7	1.4
	11歳	144.9	0.6	145.3	141.3	3.6	146.2	△0.5	146.8	144.2	2.0
中学校	12歳	151.8	△0.4	152.6	148.8	3.0	151.2	△0.1	152.1	149.6	1.6
	13歳	159.3	0.5	159.8	156.5	2.8	154.6	0.2	155.1	153.0	1.6
	14歳	164.7	0.5	165.4	162.3	2.4	155.6	△0.6	156.6	154.8	0.8
高等学校	15歳	167.8	△0.3	168.3	166.0	1.8	156.8	0.0	157.3	155.4	1.4
	16歳	169.0	△0.5	170.0	167.6	1.4	157.3	0.6	157.7	155.6	1.7
	17歳	169.8	0.2	170.7	168.4	1.4	157.8	0.5	158.0	156.2	1.6

（注）□ は最大身長差のある年齢間を示す。

イ 体 重

体重（平均値）は、女子6歳で全国平均値を上回っています。

各年齢間の体重差をみると、男子は11歳～12歳6.0kg、女子は10歳～11歳の5.4kgが最も大きくなっています。

親世代である32年前の昭和51年度調査と比べてみると、12歳及び17歳男子で4.1kg、12歳女子で2.4kgと最も増加しています。

また、親世代との差は、女子に比べ男子の方が大きくなっています。（表2）

表2 年齢別体重の平均値

（単位：kg）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成20年度			昭和51年度			平成20年度			昭和51年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	対前年差		広島県	(A-B)		広島県	対前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	18.7	△0.3	19.1	18.5	0.2	18.5	△0.2	18.6	18.1	0.4	
小学校	6歳	21.4	0.3	21.5	20.3	1.1	※21.2	0.6	21.0	20.0	1.2	
	7歳	23.9	0.1	24.2	22.7	1.2	23.3	0.1	23.6	22.4	0.9	
	8歳	26.9	△0.1	27.3	25.4	1.5	26.3	0.4	26.6	25.0	1.3	
	9歳	30.5	△0.5	30.8	28.1	2.4	29.6	0.3	30.1	27.9	1.7	
	10歳	33.7	0.3	34.3	31.6	2.1	33.7	△0.8	34.4	32.2	1.5	
	11歳	38.4	0.8	38.8	34.5	3.9	39.1	△0.4	39.3	36.9	2.2	
中学校	12歳	44.4	0.3	44.5	40.3	4.1	44.2	0.1	44.2	41.8	2.4	
	13歳	49.4	1.1	49.5	45.9	3.5	47.5	0.0	47.7	46.0	1.5	
	14歳	54.8	1.2	54.9	51.2	3.6	50.2	0.7	50.4	49.0	1.2	
高等学校	15歳	58.9	△0.6	59.8	55.5	3.4	50.8	△1.0	52.0	50.4	0.4	
	16歳	60.9	△0.2	61.6	57.2	3.7	52.7	1.0	53.0	51.5	1.2	
	17歳	62.8	0.7	63.4	58.7	4.1	53.0	0.3	53.2	52.1	0.9	

（注）1 □ は最大体重差のある年齢間を示す。

（注）2 ※は調査実施以来の最高値を示し、■ は、全国平均を上回るものを示す。

ウ 座 高

座高（平均値）は、女子17歳で調査実施以来の最高値を示し、女子8歳で全国平均値を上回っています。男子は、14歳～16歳の各年齢でこれまでの最高値と同数となっています。

各年齢間の座高差をみると、男子は12歳～13歳3.8cm、女子は10歳～11歳3.5cmが最も大きくなっています。

親世代である32年前の昭和51年度調査と比べてみると、男子12歳で1.8cm、女子12歳でそれぞれ1.0cmと最も増加しています。（表3）

表3 年齢別座高の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成20年度			昭和51年度			平成20年度			昭和51年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	対前年差		広島県	(A-B)		広島県	対前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	61.7	0.3	62.1	61.9	△0.2	61.3	0.0	61.6	61.3	0.0	
小学校	6歳	64.8	0.3	65.0	64.5	0.3	64.6	0.3	64.6	64.2	0.4	
	7歳	67.7	0.5	67.7	67.1	0.6	67.1	△0.1	67.3	66.8	0.3	
	8歳	70.1	0.1	70.3	69.8	0.3	70.1	0.6	70.0	69.3	0.8	
	9歳	72.7	△0.2	72.8	71.8	0.9	72.5	0.0	72.8	71.7	0.8	
	10歳	74.9	0.2	75.0	74.2	0.7	75.6	△0.5	76.0	75.1	0.5	
	11歳	77.6	0.2	77.8	76.2	1.4	79.1	△0.4	79.3	78.3	0.8	
中学校	12歳	81.2	△0.1	81.4	79.4	1.8	82.0	0.1	82.2	81.0	1.0	
	13歳	85.0	0.6	85.0	83.3	1.7	83.8	0.0	83.8	83.0	0.8	
	14歳	※88.0	0.5	88.2	86.5	1.5	84.5	0.1	84.9	84.1	0.4	
高等学校	15歳	※90.0	0.0	90.2	89.1	0.9	85.4	△0.1	85.4	84.8	0.6	
	16歳	※91.1	0.0	91.2	89.9	1.2	85.5	0.2	85.6	84.9	0.6	
	17歳	91.5	0.0	91.7	90.7	0.8	※85.7	0.2	85.8	84.8	0.9	

（注）1 □ は最大座高差のある年齢間を示す。

（注）2 ※は調査実施以来の最高値を示し、■ は、全国平均を上回るものを示す。

(2) 健康状態調査

ア 主な疾病・異常の被患率順位

定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）が最も高く、次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっています。（表 4）

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯（う歯）	47.1	むし歯（う歯）	60.3	むし歯（う歯）	46.3	むし歯（う歯）	61.1
2	裸眼視力1.0未満の者	16.4	裸眼視力1.0未満の者	28.4	鼻・副鼻腔疾患	7.9	鼻・副鼻腔疾患	7.9
3	鼻・副鼻腔疾患	5.0	鼻・副鼻腔疾患	9.8	歯垢の状態	6.0	歯垢の状態	6.9
4	アトピー性皮膚炎	3.6	眼の疾病・異常	5.6	歯列・咬合	5.4	歯肉の状態	6.5
5	眼の疾病・異常	3.3	歯列・咬合	3.8	歯肉の状態	5.1	歯列・咬合	5.6
6	耳疾患	2.3	ぜん息	3.3	眼の疾病・異常	4.4	眼の疾病・異常	5.3
7	ぜん息	1.5	アトピー性皮膚炎	3.2	心電図異常	3.3	蛋白検出の者	4.1
8	その他の皮膚疾患	1.4	その他の疾病・異常(歯・口腔)	3.1	アトピー性皮膚炎	3.2	アトピー性皮膚炎	2.8
9	その他の疾病・異常(歯・口腔)	1.1	耳疾患	3.0	ぜん息	2.9	心電図異常	2.6
10	歯列・咬合	0.9	歯肉の状態	2.9	蛋白検出の者	2.7	耳疾患	1.8

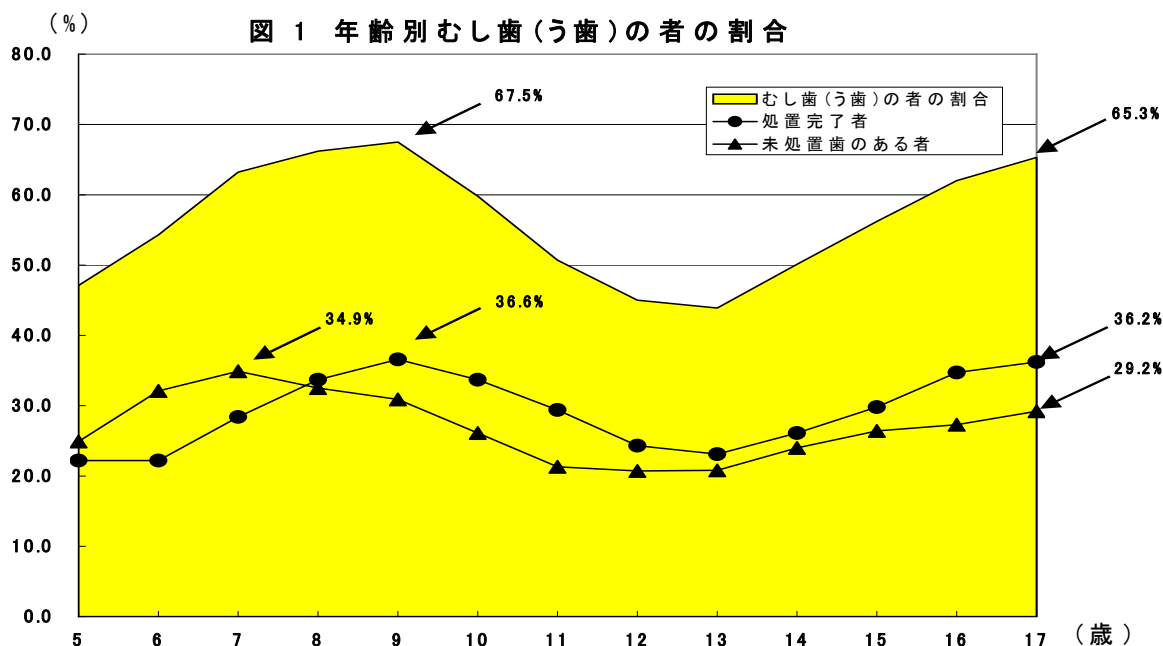
(注) 中学校、高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

イ むし歯（う歯）の状況

「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園が 47.1%、小学校 60.3%、中学校 46.3%、高等学校 61.1%となっています。（図 2）

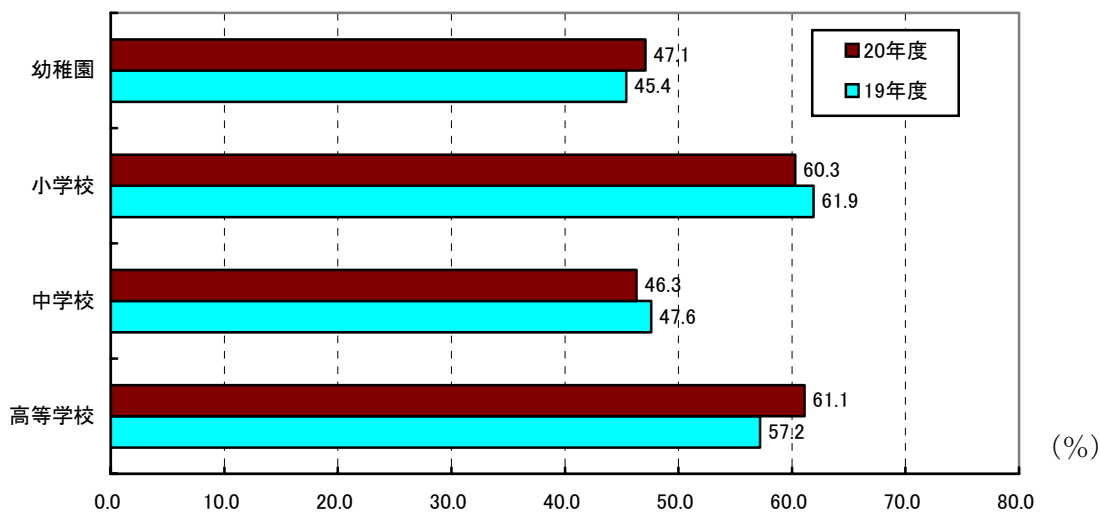
「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると 9 歳が 67.5%と最も高くなっています。

また、処置完了者の割合は、8 歳以降で未処置歯のある者の割合を上回っています。（図 1）



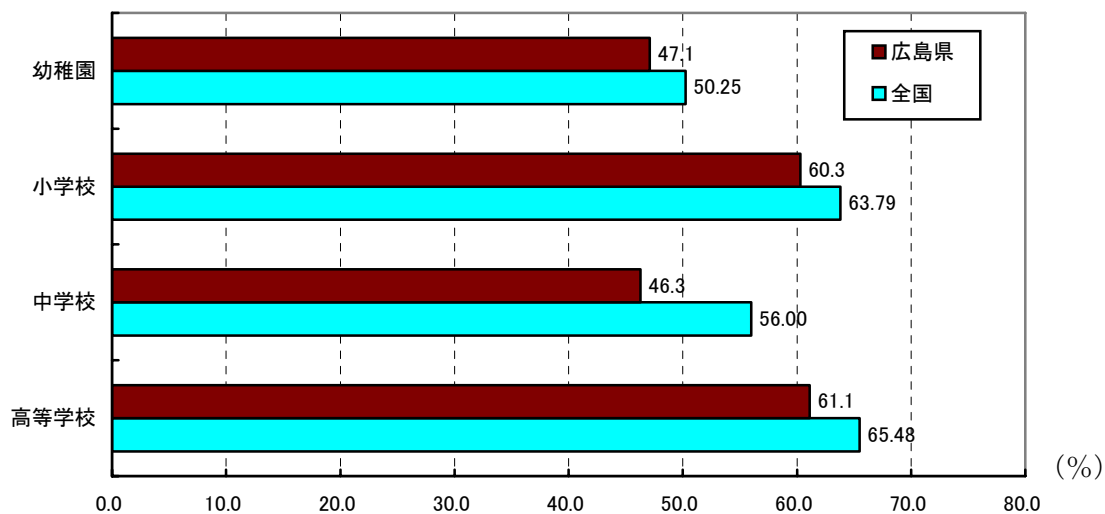
前年度と比較してみると「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園、高等学校で上昇し、小学校、中学校で低下しています。（図2）

図2 むし歯（う歯）の者の割合（前年度との比較）



また、全国と比較してみると「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても下回っており、特に中学校において9.7ポイントと大きく下回っています。（図3）

図3 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



（注）被患率等の標準誤差の大きさにより、全国数値は小数点第2位まで、広島県数値は小数点第1位までを表示している。

平成20年度学校保健統計調査報告は、広島県のホームページ統計情報「広島
の統計」に掲載していますので、ご覧ください。

ホームページアドレス <http://db1.pref.hiroshima.lg.jp>

問い合わせ先

広島県企画振興局政策企画部統計課 消費経済・教育統計グループ

電話 082-513-2534（ダイヤルイン）